ラリグラス・ジャパン News Letter

#07
2022
6月号

学校が再開され、
テレサ・アカデミーの子どもたちも
楽しく学んでいる

五月雨明けのからりと晴れた夏空が待たれる今日この頃、皆さまにおかれましては元気にお過ごしでしょうか。

2年以上続くコロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻など、世界各地で深刻な事態が発生し、人々の生活を圧迫しています。途上国の人々は厳しい状況に追い込まれており、私たちの支援先であるネパールとインドにも、その日を生き抜くだけで精一杯の人が少なくありません。

とくにコロナ禍に見舞われて以降、断続的に行われた行動制限によって経済活動が停滞し、貧困率は一気に高まりました。

2月頃から新型コロナウイルス新規感染者数が落ち着きを見せ、現地はようやくこれまでの日常を取り戻しつつあります。しかし、ひとたび打撃を受けた経済は、一朝一夕に回復するものではありません。今も、その日一日の糧に事欠く人は多数存在し、貧しさから売られていく女の子たちがいます。閉塞する社会のストレスから、妻や娘に暴力をふるうケースも増加しています。

今こそ、こうした社会的に弱い立場にある女性や子ども、障がい者のために、マイティ・ネパール、レスキュー・ファンデーション、NDWSの活動が必要とされています。どうぞ、これからもネパールとインドの女性と子どもたちのために、ご支援いただけますようお願い申し上げます。

追伸：2年余り、訪問できずにおりましたが、状況が許すのであれば、今年度中に現地を訪れたいと思っております。

認定NPO法人 ラリグラス・ジャパン
〒108-0072 東京都港区白金3-10-21　TEL&FAX 03-3446-2193
E-mail：info@laligurans.org　http://www.laligurans.org

現地活動報告　マイティ・ネパール

オミクロン株の影響により、今年1月中旬から感染者が急増したネパール。25人以上の集会や対面授業の禁止等の行動規制を行っていたが、結果、感染者数が減少傾向に転じたため、2月に入ると規制を緩和。3月5日からはカトマンズ盆地内（カトマンズ、ラリトプール、バクタプール）において、すべての規制が解除され、マイティも通常運営されることになった。

昨年、度々行われた行動規制の中にあっても、マイティは精一杯活動してくれた。1年間で3千人以上の強制売春やレイプ等の性被害者を保護し、58件の人身売買犯罪について訴訟を起こす。人身売買犯罪を未然に防ぐための活動も大きな成果があった。

マイティは、インドとの国境沿い13カ所にボーダーガードと呼ばれるスタッフを配し、朝6時から夕方6時まで警察と合同で監視業務を行っている。不自然な組み合わせの通行人や女性だけのグループ、1人で越境しようとしている女の子がいれば、身分証をチェックし、行先や目的等を尋ねるのだ。「サウジアラビアへ出稼ぎに行く」と言いながら、パスポートを所持していない等、言い分に不審な点があれば、その場でトランジット・ホームに保護する。こうして'21年中に2045人を人身売買犯罪から守ることができた。

WE EMPOWER G7（国連女性機関、国際労働機関、EUのプロジェクト）によれば、新型コロナウイルスの感染拡大で外出自粛が言い渡されてから、家庭内暴力の報告件数が世界的に増加したとのこと。ネパールでも同様の現象が見られるため、マイティと各地域のマイティ関連施設を基点に、暴力廃絶を訴えるキャンペーンを行った。また、同地域においてアウェアネス・キャンペーンを実施し、歌や演劇、ポスター貼りやパンフレットの配布を行い、人身売買犯罪の危険性を呼びかけた。

毎年4月、マイティの創立記念日に行われる祝賀会。今年は恒例の子どもや女性、スタッフ有志によるダンスや歌の披露に加え、カトマンズ市内のセックスワーカーを招き、サッカーの試合やアート作品の展示会を行った。マイティはこれまでにも国内のセックスワーカーの支援を行ってきたが、コロナ禍に見舞われて以降、彼女たちの生活は困窮している。物資の支援に加え、気軽に相談を寄せられる環境作りを目的に、こうした交流の機会をもったとのことだ。

大々的に行われたアウェアネス・キャンペーン

行動規制は解除されたものの、持病のあるホスピスの女性たちの場合、まだまだ注意が必要だ。外出も訪問も制限される日常はとても退屈で、人恋しくてならないらしい。ラジェンドラ・サッキャさんにお菓子の詰め合わせを配布してもらったときも口々に、「ラリグラスの皆さんはいつ来てくれるのですか?」と聞かれたそうだ。そこでマイティは、本部の職業訓練のスタッフ・ヨショーダさんを、識字・ヨガ・ダンスの講師として派遣することにした。みんなで楽しく学ぶことで、少しでも生活にハリがもたらされればと願っている。

新型コロナウイルスの感染拡大により、約2年間、生徒を招聘できなかったプリベンション・キャンプ。昨年10月、ようやく職業訓練が再開されたが、その卒業を機に、2年前の卒業生5人にミシンの贈呈が行われた。彼女たちは、職業訓練を終えて村に帰った後も仕立屋で働いてスキルを磨き、自分の店をもつレベルに達したという。ネパール女性が纏うクルタやサリーの仕立て代は一点数百円ほど。着る物は生活必需品。大きな収入にはつながらなくとも、縫製技術は確かな生活の糧となるはずである。

ミシン贈呈式の様子

創立記念日は大いに楽しんだ

レスキュー・ファンデーション（RF）

今年1月中旬、新型コロナウイルス感染者数がピークに達し、第3波を迎えたとされたインド。夜間外出禁止や施設の定員制限などの対策を講じていたが、2月に入ると新規感染者が減少傾向に転じたため、全面的な規制緩和に踏み切ることとなった。

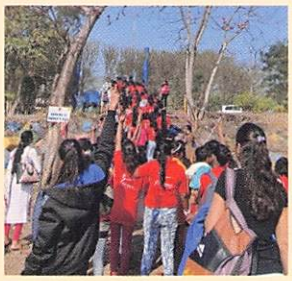
昨年に続くコロナ禍にあり、さまざまな行動規制の中での活動となったが、スタッフ一丸となって大きな成果を上げてくれた。'21年中に行った売春宿からのレスキューは97回。デリーで203人、ムンバイのあるマハラシュトラ州で250人、ウッタルプラデーシュ州で21人、ビハール州で19人、グジャラート州で14人、ハリヤナ州で1人、ゴア州で1人、計509人と過去最高の救出人数を記録した。

救出直後から行われる医療ケアについては、388人を外部の病院に連れて行き、治療を施した。そこには13人のAIDS患者の治療と、売春宿で妊娠した女性10人の出産が含まれている。また、施設に医師を招いて行うヘルスキャンプでは、47人が治療を受けた。心のケアとしては、個人カウンセリングを184回、グループカウンセリングを181回実施した。

心身の状態が落ち着いてきたところで、教育と職業訓練が行われる。教育については、低学年であれば施設内の学校で行うが、高学年になると外部の学校に通うことになる。'21年中は施設内の学校で22人が学び、外部の学校へ31人、大学へ6人が通った。

「EKATRA」も順調に実施されている。'21年中は、コンピューター技術を627人、基礎英語を855人、アクセサリー作りを269人、縫製技術を688人、バッグ作りを261人、ズンバとヨガを836人が学んだ。雇用創出とエンパワーメントを目的としたこのプロジェクトの成果として、'21年中に5人が就職した。また、一連のリハビリプログラムを経て、ネパールやバングラデシュ等の母国に送還された被害者は554人に上った。

送還手続きは極めて煩雑だ。公的文書を整え、各国大使館に何度も通いつめなくてはならない。場合によっては2年以上の時を要することもあるという。コロナ禍にありながら、予想を超える成果を上げたRF。南米の作家ロア・バストスの「鳥が大気の抵抗に逆らって飛び立つように、逆境に挑む力こそが人間を飛翔させるのだ」の言葉のとおり、厳しい状況下にあるからこそ、スタッフの士気がより上がったのかもしれない。



行動制限が解除され、2年ぶりにピクニックへ

「EKATRA」のズンバクラス

ネパール障がい者女性協会（NDWS）

NDWSでは、前回のニュースレターで紹介した、地域に根差したリハビリテーション（CBR）活動の一環で、自治体から委託を受け、地域の障がい者の情報収集を行い、必要に応じて障がい者手帳の発行を行っている。この度、新規にラリトプール市バグマティ村の7つの地区で調査を開始するための準備が行われた。CBR活動で重視している理念のひとつが、地域資源の活用である。バグマティ村に住む人々の中から調査員を募集し、その調査員に研修を実施、そして必要な情報収集をしてもらうという手法を取っている。調査員は、その地域に住む学生や主婦など、女性の応募が多い。知っている家庭も多いため、調査対象の家庭にとっては村外の人よりも話しやすいという利点がある。

'22年3月に、選定された調査員に対するオリエンテーションが行われた。オリエンテーションでは、障がい種に関する理解、収集すべき情報、調査票の記入方法などに関して説明が行われた。調査では、事前に村役場が把握している障がい者・児のいる家庭を一軒一軒訪問し、障がい種や程度、必要な支援に対するニーズなどを聞き取る。また、近隣の家庭で障がい者・児のいる家庭を知っているかどうかについても訪問時に聞くようにしているという。山間部にある家庭は点在していることが多く、車やバイクが通れない山道がほとんどであるため、家庭訪問に時間がかかる。また、ネパールでは障がいを本人や家族の過去や前世での罪に対する罰と考える人も多く、障がい者を隠す家庭も多い。調査員に対する研修では、家族や当事者に対する接遇や答えやすい質問技法についても講義・ロールプレイを行い、できるだけ多くの、そして的確な情報を収集できるように工夫している。調査結果はNDWSのスタッフが取りまとめ、その結果をもとに障がい者手帳発行の手続きを行う。また、歩行器や車いす等の必要な機器のリストも作成し、市役所の予算で配布予定である。

研修を終えた調査員

調査員の研修で質問の練習を行う参加者

マイティの子どもたちのその後

'15年7月28日、カトマンズにあるヒンドゥー教寺院・パシュパティナートで、生後3カ月ぐらいの男の赤ちゃんが警察に保護された。身元がわかるものはなく、捨て子と思われたため、マイティに運び込まれることになった。

マイティには「ベイビールーム」といわれる乳児院がある。人身売買被害者が売春宿で身ごもり、マイティに保護された後に生まれた赤ちゃんや、街中に捨てられていた赤ちゃんなどが保護される一角だ。パシュパティナートで発見された赤ちゃんもここで養育されることになり、プラバットと名付けられた。

とても小さな赤ちゃんだったが、ミルクをよく飲み、すくすくと育っていった。ところが1歳になる頃、子守りを担当するスタッフから、「プラバットの耳は聞こえていないようだ」との報告が上がる。早速、病院で診てもらったところ、両耳の蝸牛に障がいがあり、重度の難聴であることがわかった。

ジェスチャーで意志の疎通を図るなどして、他の子どもたちと仲良く過ごしていたプラバットくん。とくに不自由は感じていない様子だったというが、就学年齢(7歳)に達したため、今春からバネパにある全寮制の聾学校で学ぶことになった。長期休暇中は、マイティに里帰りするとのことである。

このタイミングで、彼に大きな幸運がもたらされた。医師に「人工内耳手術を受ければ聞こえるようになる」とは言われていたが、約250万円の費用を捻出するのは難しく、手術に踏み切れずにいた。そこへ昨年末、とある個人ドナーが手術費の支援を申し出てくれたのだ。

右耳に取り付けられた人工内耳によって、初めて聞くことを知ったプラバットくん。現在、聾学校で発音・発語指導を受けているとのこと。彼の世界は大きく広がっていくことだろう。

Information

EKATRAプロジェクト

レスキュー・ファンデーションでは、保護された女性の中から、スキルが高く、リーダーの資質を持つトレーナーを育成し、彼女たちがシェルターの女性の指導にあたる EKATRA プロジェクトを実施しています。トレーナーには給与が支払われ、コロナ禍においてロックダウンが実施されても、シェルター内でトレーニングを継続できる、雇用創出とエンパワーメントを目的とした持続可能な取り組みです。当会では、このプロジェクトを支援するため、**一口 1,000 円**として、ご寄付を募集いたします。

コンピューター技術の指導

コロナ対策プロジェクト

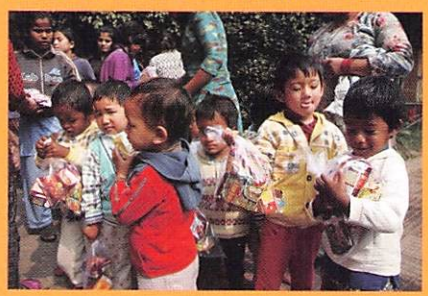
コロナ禍により、社会的弱者はさらなる窮地に追い込まれています。もっとも打撃を受けたのは低所得者層です。

人身売買犯罪が起こる原因のひとつは貧困です。自然災害後、人身売買犯罪が増加するといわれていますが、今回のコロナ危機後も女の子たちが児童労働や強制売春の犠牲になる危険が高まると予想されます。

現地のパートナー団体は長年培ってきたノウハウを生かし、素晴らしい活動をしてくれています。そうした彼らの活動が滞ることのないよう、「コロナ対策プロジェクト」としていただいた寄付金は、生活困窮者への支援物資および感染予防の啓発キャンペーンの費用に充てさせていただきます。**一口 1,000 円**としてご協力をお願いいたします。

お菓子プレゼント

マイティの女性や子どもたち、NDWS の子どもたちは、貧困家庭の出身者が多く、お菓子を食べる機会が滅多にありません。そこで、年 2 回のお楽しみ企画として、20 年以上にわたり、お菓子の詰め合わせプレゼントを続けてまいりました。今年4月、現地スタッフのサッキャさん一家にパッキングをお願いし、無事に配布。今後も継続予定です。**一口 1,000 円**の寄付をお願いいたします。



振込先はこちら!

郵便振替

口座番号: 00100−5−713661
加入者名: トクヒ) ラリグラス ジャパン

※銀行振込の場合
銀行名:ゆうちょ銀行
支店名:0一九(ゼロイチキュ)店 (019)
口座番号:当座 0713661

銀行振込

銀行名:三菱UFJ銀行
支店名:麻布支店(店番:570)
口座番号:普通預金 0158054
振込先名義:トクテイヒエイリカツドウホウジン ラリグラスジャパン